

## 平成28(2016)年「正覚寺報」9月号

## ご案内

## お聴聞と人生を語る会 9月4日(日)20時～

四年前発足の本会では、ずっと“方便法身”の働きは如何様にして衆生に届いて下さるのかを話し手/聞き手の協力でお訊ねしております。

## 仏教婦人会例会 9月16日(金)19時半～

この七月から始まった組連続研修会に仏婦三名の会員様がお出席になっており、直前の連絡や爾後のご報告も楽しみです。初めてのお方もお参りになって下さいませ。

## 秋の彼岸会 9月20日(火)14時、19時半～

19日の徳勝寺様から秋の聞法週間が始まります。昼と夜のご法座です。是非お運び下さい。

## お聴聞のご縁を結んで戴くことの大切さ

当院、滋賀組、親戚寺院の伝統ご法座を含めると、ご法座の機会は大変豊富です。

折角のご法座ですから、御門徒さんのお一人お一人にご縁を結んで戴くのが一番であります。

・ **りびんぐらいぶず 9月第1号「父の五十回忌法要に遇う」**は、去る8月20日に営まれた滋賀組親鸞聖人讃仰布教大会のお一人の布教師さまがご自身の生涯の思い出「父の五十回忌に遇う」について御法話下さった話題をご紹介します。

・ **りびんぐらいぶず 9月第2号「われも六字のうちこそすめ」**は、去る8月21日に営まれた正覚寺歓喜会(お盆の集い)の話題をも含め、如来様のお救いに与る衆生の「苦悩と感謝」の原点を手掛かりに、聞名の救いの構造をご紹介します。

・ **りびんぐらいぶず 9月第3号「光明無量の願・寿命無量の願」**は、去る8月22日開催の第10回「無量寿経勉強会」で学習した成果(阿弥陀様のお徳をお誓い下さった光明無量の願と寿命無量の願)を踏まえて、伝道教学の柱になる太いロジックの構想をご紹介します。勉強会は、滋賀教区での次代・次々に繋ぐ営みであります。高鳥組の若手の僧侶からぜひ参加したいとの力強いお言葉を戴き勇気が湧き上って参りました。

## 命の平等をいただくことの困難さ

毎朝、鐘を付くたびに、上から木の粉が落ちてくることに気付いたのはいつ頃でしょうか。見れば鐘樓の横桁に孔が空いています。これはと心配になり、三脚を組み、蜂に効果的に効く噴射剤を孔に吹き込んだところ、正体が明らかになりました。出てきたのはクマバチでした。蜂としては人間を刺すこともない大人しい蜂なのに、古い木材に孔を空けて住処とすることが知られています。お聴聞の会で総代さま方に御相談したところ、それでは、というので、8月13日(土)お二方がご奉仕下さり、噴射剤を噴霧した後に、シリコン樹脂で孔を埋めて戴きました。北隣の横桁にもう一カ所蜂の住処があり、本日だけで3匹のクマバチを落としましたが、致し方ないとは申せ、“殺生をしてはいけない”という仏教徒の五戒の一つにも触れ、可哀想なことをしたことも事実でありました。

## ご本尊はどこにいらっしゃるのか

8月27日、“一度来て戴きたい”とのお声掛かりで、新幹線を駆って曾て仕事のご縁のお方をお訪ねしますと言葉で表現し難い仏事の御相談です。

どうやら、お内仏の修理に際しての“遷仏法要(おあたまし)”の基準は、どの程度の修理を基準に考えれば良いのか、

・ お洗濯の間、ご本尊様はどこにいらっしゃるのか等々でありました。

毎月お参りになるお寺様は、若くて御法話は一度もなさっていらっしゃらないとのこと。

「阿弥陀様の本籍は、西方十万億土の彼方でいらっしゃるけれども、私たちには“お名号を称えてご覧”とお勧め下さって居る。仰せの通りに南無阿弥陀佛と称えさせて戴くという直ちに南無阿弥陀佛と聞こえて下さる。このとき聞こえて下さったものこそは声になって届いて下さった阿弥陀様そのお方でありました。阿弥陀様は喚び声になって届き私を包んで居て下さる。そのとき阿弥陀様は私の処にいらっしゃるのです。」合掌。